



Y.Hatanaka

JRA70周年記念

THE NIKKEI SHO

第72回 日経賞 (GII)

本賞 1着 67,000,000円 2着 27,000,000円 3着 17,000,000円 4着 10,000,000円 5着 6,700,000円
付加賞 714,000円 204,000円 102,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 4歳56^{kg}・5歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.3.25以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2023.3.24以前のG I競走(牝馬限定
競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

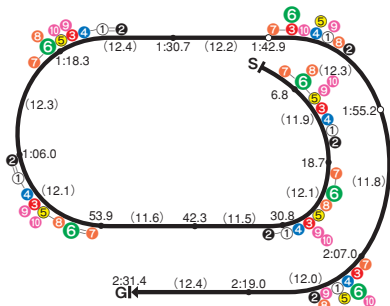
2024.3.23 中山 小雨・良 芝2500m (国際) 指定

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	シュトルーヴェ	騾5	57	鮫島克駿	2:31.4	9-8-8-6	35.3	480(-6)	6.3④	堀 宣行(美浦)	112
2	⑩	クロミナス	牡7	57	戸崎圭太	1/4	6-6-7-6	35.6	492(-4)	5.0②	尾関知人(美浦)	111
3	⑤	マイネルウィルトス	牡8	57	横山武史	3/4	6-6-5-4	35.8	484(-4)	5.1③	宮 徹(栗東)	110
4	②	マテンロウレオ	牡5	57	横山典弘	ハナ	1-1-1-1	36.4	480(-8)	8.3⑤	昆 貴(栗東)	110
5	⑨	ボッケリーニ	牡8	57	浜中 俊	クビ	4-4-3-3	36.2	470(±0)	2.3①	池江泰寿(栗東)	
6	⑧	アドマイヤハレー	牡6	57	丹内祐次	3/4	8-8-2-2	36.4	478(+4)	47.3⑦	宮田敬介(美浦)	
7	①	ヒートオンビート	牡7	58	石川裕紀人	2 1/4	2-2-3-4	36.6	474(+2)	9.8⑥	友道康夫(栗東)	
8	④	サザンナイツ	騾6	57	津村明秀	1 1/4	3-3-5-6	36.6	450(-6)	97.3⑨	林 徹(美浦)	
9	⑦	ウインエアフォルク	牡7	57	原 優介	1 1/2	10-10-10-10	36.1	484(+4)	126.5⑩	根本康広(美浦)	
10	③	ホウオウリアリティ	牡6	57	大野拓弥	ハナ	4-4-8-9	36.5	490(+4)	78.0⑧	高木 登(美浦)	

単勝⑥630円(4^{kg}) 複勝⑥260円(4^{kg}) ⑩230円(3^{kg}) ⑤200円(2^{kg}) 格連⑥-⑧610円(3^{kg})

馬連⑥-⑩1,420円(7^{kg}) ワイド⑥-⑩520円(6^{kg}) ⑤-⑥550円(8^{kg}) ⑤-⑩540円(7^{kg})

馬単⑥-⑩3,190円(14^{kg}) 3連複⑤-⑥-⑩2,260円(9^{kg}) 3連単⑥-⑩-⑤15,370円(56^{kg})



通過タイム : 700m 900m 1100m 上り : 800m 600m
42.3 - 53.9 - 1:06.0 48.5 - 36.2

アラカルト

- ・鮫島克駿騎手は日経賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算10勝目
- ・堀宣行調教師は日経賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算72勝目
- ・キングカメハメハ産駒はJRA重賞通算140勝目
- ・5歳馬の勝利は23年タイトルホルダーに続く通算21回目
- ・驕馬の勝利は初
- ・シュトルーヴェは天皇賞(春)(G I)に優先出走できる

シュトルーヴェ Struve

騏 黒鹿毛 2019.4.21生

北海道安平町 追分ファーム生産

馬主・村木克子氏 美浦・堀宣行厩舎

馬名意味・フィンランド等にある、世界遺産となっている史跡の名
より

アンチヨCAN系 F9-e

キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo 鹿毛 1990	Mr. Prospector
		Miesque
	マンファスIRE 黒鹿毛 1991	Last Tycoon Pilot Bird
アンチュラス 鹿毛 2009	ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
		Wild Zone
	アンチヨCAN 鹿毛 1998	Ruth Ann d'Or

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×S5

INTERVIEW

松島慧 調教スタッフ(追分ファームリリーバレー)

芝の重賞を沸かせてもらいたいです

育成時から柔軟な動きをしていて、しっかりとしてくれば大きなレースでも走ってくれそうなイメージがありました。牧場にいた頃からやんちゃな性格をしていましたが、騏馬となったことで走りに集中力が出来た印象を受けます。初めての重賞挑戦でしたが、チャンスはあると思っていました。距離の不安もないので今後も芝の重賞を沸かせてもらいたいです。



Photostud

だ。面にかけて2番手以下をどんどん離し、レースを先導。10馬身以上のリードを開く大逃げに場内は沸いたが、後続の各馬は自分のリズムを守って進み、ボツケリーニは4番手に腰を落ち着ける。マイネルウィルトスとクロミナンスが直後の中国を追走。シュトルーヴェの、鮫島克駿騎手は後方2、3番手につけ仕掛けのタイミングを窺った。

4コーナーに差し掛かると馬群は一気に凝縮。迎えた直線の半ばからは早めに進出して前を呑み込みにかかったボツケリーニと、粘りに粘るマテンロウレオが激しく火花を散らす。しかしゴールの寸前、差し馬たちが急襲し、形勢は一変。加速を促されても今ひとつ反応が鈍かった4コーナーとは裏腹に、エンジンに火がついてからは馬群を割って鋭く伸びたシュトルーヴェが、クロミナンス、マイネルウィルトスを抑えて鮮やかな追い込みを決めた。

2勝クラスを卒業した後の3戦、足踏みが続いた本馬は昨秋の休養時に去勢。復帰初戦の3勝クラス特別を好時計で快勝して軌道に乗った。デビューからの10戦、すべて左回りのレースに使われてきたサウスポーナから、鮫島騎手と初コンビを組んだこの日は、初の右回り、さらには重賞の壁もアッサリとクリア。去勢を経て、晩成の素質を開花させたキングカメハメハ産駒にはまだまだ「伸びしろ」が見込めそう

父キングカメハメハ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 持込 中央8戦7勝(日本ダービー^{G1}、NHKマイルC^{G1}、神戸新聞杯^{GⅡ})、最優秀3歳牡馬、05年から供用、19年死亡。10~11年日本リーディングサイヤー。08~09年日本2歳リーディングサイヤー〔代表産駒〕ドゥラメンテ、レイデオロ、ロードカナロア、ラブリイデー、ホッコータルマエ、ローズキングダム、アビバネ、レッツゴードンキ、チュウワウイザード、ミッキーロケット、スタンینگローズ、リオンディーズ、ルーラーシップ、ベルシャザール、ジュンライトボルト、ベプチドナイル、ハタノヴァンクール、タイセイレジェンド(以上^{G1}/^J_Ⅱ1勝ち馬)、他に重賞勝ち馬多数

母アンチュラス

北海道安平町 追分ファーム生産 中央22戦2勝(ファンタジーS^{GⅢ}2着)スカテナート(16 牡父キングカメハメハ)中央11戦0勝、地方50戦0勝
アンティシペイト(17 牡父ルーラーシップ)中央18戦5勝(福島民報杯・L、オホーックS、阿寒湖特別、七夕賞^{GⅢ}3着)
インフィニタス(18 牡父モーリス)中央19戦1勝
シュトルーヴェ 本馬(19 騏父キングカメハメハ)中央11戦5勝(日経賞^{GⅡ}、ジャパンカップ2023年ロンジンワールドベストレース受賞記念、尾張特別)獲得総賞金134,526,000円
スペインセラート(20 牡父ルーラーシップ)不出走
アンティシパル(21 牡父ニューイヤーズデイUSA)中央2戦0勝 ㊦(22 牡父エビファネイア)
(23 前年種付せず)

祖母アンチヨCAN

不出走。06年輸入、09年死亡
ワンダーレディアンエルUSA(03 牡父Real Quiet)北米3勝(CCAオークス^{G1}、デムワゼルS^{G2}、ボニーミスS^{G2}2着、スーザンズガールブリーダーズカップS・L2着、エルエンシノS^{G2}3着、ダヴォナディールS^{G2}3着)、輸入繁殖牝馬、クラークレーン Clarke Lane(アリダーS・米3着)の母
ダノンアンチヨ(07 牡父Unbridled's Song)持込 中央0勝、地方2勝
イングリッド(08 牡父ディーブインパクト)中央3勝
アンチュラス(09 前出)
曾祖母ルースアンドール Ruth Ann d'Or
アメリカ産 北米2勝(バジネットS・L3着)、マターオブロー Matter of Law(ナディS・加2着)の母、**マーガレットレイ Margaret Reay**(ミスグリロS・米^{G3}2着)の祖母、**アモーレイUSA**(ビホルダーマイルS・米^{G1})の曾祖母

数々の「初」をクリアして重賞初制覇

G1ウイナーは不在、10頭の出走馬中、重賞勝ち馬も3頭のみと、やや小粒な顔触れで争われた日経賞は、タイトルホルダーが連覇した前2年間の2着馬で、唯一の重賞3勝馬でもある8歳の古豪ボツケリーニが断然の支持を集めた。同馬が2着した1月のアメリカJCCの3、5着馬、7歳のクロミナンスと8歳のマイネルウィルトスが紙一重のオッズで2、3番人気を分けたものの、勝利を飾ったのは4番人気のシュトルーヴェ。重賞初挑戦の5歳騏馬が実績上位の面々を撃破し、初の勲章を手にした。

大方の意表を突いて先手を奪ったマテンロウレオが、1コーナーから向正面に、エンジンに火がついてからは馬群を割って鋭く伸びたシュトルーヴェが、クロミナンス、マイネルウィルトスを抑えて鮮やかな追い込みを決めた。

2勝クラスを卒業した後の3戦、足踏みが続いた本馬は昨秋の休養時に去勢。復帰初戦の3勝クラス特別を好時計で快勝して軌道に乗った。デビューからの10戦、すべて左回りのレースに使われてきたサウスポーナから、鮫島騎手と初コンビを組んだこの日は、初の右回り、さらには重賞の壁もアッサリとクリア。去勢を経て、晩成の素質を開花させたキングカメハメハ産駒にはまだまだ「伸びしろ」が見込めそう